

全酪連会報 5

2025 MAY No.716

酪農とのかけはし／
公益財団法人
中国四国酪農大学校

第76年度(令和7年度)
事業計画案

酪農部だより／
酪農乳業需給変動対策特別事業
令和7年度よりスタートします

総務部だより／
オンラインカジノによる賭博は
犯罪です!

日本酪農見て歩紀／
斎藤牧場(福島県喜多方市)

酪農トピックス／
多くの酪農家に支えられ、北海道も50回!
～第50回北海道酪農経営発表大会開催～
(札幌)ほか

全酪新報ダイジェスト版

作品募集のお知らせ

第52回 全国酪農青年女性
酪農発表大会開催のお知らせ

全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>

COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会



ZENRAKUREN

酪農との かけはし



第55回 公益財団法人
中国四国酪農高等学校

公益財団法人 中国四国酪農高等学校の 「生産・支援・消費」の 視点に立った 担い手育成の取組



▲ 関哲生教務課長

平成30年3月に中国四国酪農高等学校のご紹介を致しましたが今回は多様化する酪農教育現場の取り組みについてご紹介致します。

学校の概要

中国四国酪農高等学校は岡山県北西部の蒜山高原にある全国唯一の酪農専門の専修学校であり、男女共に全寮制です。蒜山高原は蒜山三座（上蒜山、中蒜山、下蒜山）の裾野に広がる標高500～600



mの高原で、蒜山三座をのぞむ牧草地でジャージー牛が草を食み高原の登山道沿いにはカタクリやイワガミなどのたくさんの野の花が咲き、牧歌的な景観が広がっています。毎年春になると豊かな草原を守るための伝統行事「山焼き」が行われます。山の斜面に火をつけて、燃えた草木で豊かな土壌をつくり、また新たに草木を芽吹かせる、蒜山に長年続く草原を維持するための伝統行事です。大学校は昭和36年に岡山県立酪農大学校として設立され、昭和40年に中国四国9県と兵庫県を合わせた10県で構成する財団法人中国四国酪農大学校に改組しました。平成22年に専修学校の認可を受け、平成25年からは公益法人に移行しました。

中国四国酪農高等学校のミッション

大学校のミッションは「酪農の将来を担う人材を育て、酪農の発展に資する」というものであり、これは開学当初から将来も変わらないようです。しかし、学校を取り巻く環境は大きく変わります。①学生の多様化・酪農後継者の比率が下がり非農家出



中国四国酪農大学校のビジョン

こうした環境の変化への対応が中国四国酪農大学校に求められており、運営ビジョンを描き、生産工程を持つ教育機関としての機能を発揮しながら、酪農の持続的な発展の

身者が増えています。女性の比率増加、そして職業選択として酪農を目指す動機も多様化しています。②酪農を取り巻く環境の変化・生産費の増加と生産物価格の低迷により経営は悪化し農家戸数は減少しています。一方酪農経営には「資源循環」「アニマルウェルフェア」「労働環境の改善」等が求められるようになっていきます。③消費動向の変化・物価高騰や人口減少により消費は減退傾向です。

ための取り組みを進めています。

①「生産」の担い手育成として従来からの専門的な知識と技術の教育に加えて、IoTの活用によるスマート農業化や農場HACCPに基づく管理システムの運用に取り組み、今後は環境、牛、人にやさしい持続可能な酪農が実践できるよう放牧酪農やメタン発酵処理施設の設備を計画中です。

②「支援」の担い手育成として生産現場が求める人材育成のための学生教育に加えて酪農に関する組織や会社に従事する社会人等を対象として酪農フィールド研修科（社会人研修）を設置し、座学と実習を平行して行うことで受講生のキャリアアップを図っています。

③「消費」の担い手育成として小学校・中学校を主な対象として搾乳体験

などの取り組みを実施しています。特に低年齢層に理解を進めることは将来の理解ある消費者を育てるのみならず「生産の担い手」の発掘も期待できます。そして地域と共存した学校運営にも取り組んでいます。

公益財団法人 中国四国酪農大学校(学生)の 1日の学習スケジュール

5:30▶	搾乳実習
7:30▶	朝食
8:00▶	
8:20▶	午前定例実習
9:30▶	
10:00▶	講義
12:10▶	昼食
13:00▶	講義
14:00▶	
14:20▶	午後定例実習
16:30▶	夕食
17:30▶	搾乳実習
19:30▶	

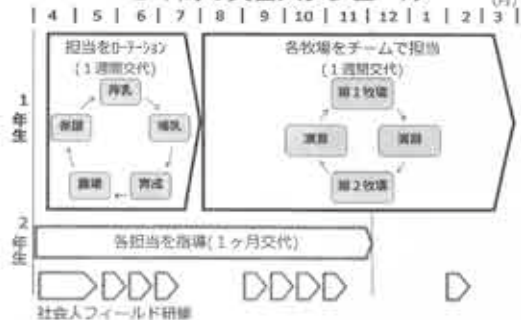
卒業生の就農・就職の状況

区分/卒業年	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
卒 業	26	21	19	23	25	16	22	16	29	18
就業者	6	1	3	3	4	2	4	1	4	3
新規就業者				1						
常用就業者	17	17	14	14	16	10	14	12	19	11
酪農へ入る	1	2	2	1	3	3	1	3	3	
【身体 （養分・肉用性）】	1	1		3	2	1	1		1	
大学編入	1									
民間企業				1						1
研修・その他							2		2	3

カリキュラム

	1年次	2年次
教育	基礎学習 （講義・付属牧場で実習）	4月～11月 校内・校外研修 12月～3月 応用学習 （講義・実習）
資格・免許	大型特殊車両運転免許（農耕限定） けん引車両運転免許（農耕限定） 毒物劇物取扱者免許 危険物取扱者免許 家畜（牛）人工授精師免許 フォークリフト運転技能講習 車両系建設機械運転技能講習 酪農ヘルパー専門技術員養成研修	卒業時に専門士（農業専門課程） 所定師資格 家畜（牛）体内受精移植師免許 

1年間の実習スケジュール



大学校の卒業生は、酪農後継者として自営するほか、全国各地の大規模農場等へ雇用就農されています。特に、実践教育で培われた確かな技術と知識を持つ専門技術者として高い評価を得ており、全国の酪農関係者から多くの求人が寄せられています。近年では、非農家出身者を中心に雇用就農が増加しており、酪農場のほかに酪農ヘルパーや農協職員、試験場等の付属農場職員として活躍する方もいるようです。（※令和5年度までの卒業生1,484人）

今ではプライベートを優先したい若者が増加しており、雇用側に求められることは業務体制の明確化、教育プログラムの充実、キャリアアップに応じた報酬等があります。今後の取り組みとしては地元自治体、関係団体、全酪アカデミー等と連携しながら、新規就農に意欲的な卒業生を支援するコースの設置を検討されています。昨今の酪農情勢より新規就農への道は大変厳しい状況にあります。酪農生産現場の即戦力を養成する全国唯一の酪農専門大学校として、酪農の魅力を発信し続けて欲しいと願っています。

なお、当校には、毎年新人研修の一環として本会の新人職員を受け入れていただいていますこと、この場を借りてお礼申し上げます。

第76年度
(令和7年度)

事業計画案

本会は、第十三次中期事業計画（令和6～8年度）に基づき事業を展開しています。2年度目となる令和7年度事業計画は、3月4日開催の理事会で承認され、最終的には7月24日に予定している通常総会に諮ることになっています。

以下に、第76年度（令和7年度）事業計画（案）の重点施策について報告いたします。

I 基本方針

令和7年度は、「第十三次中期事業計画」の2年度目にあたる。「全酪連将来ビジョン」の主眼である持続的な酪農生産基盤の構築を目指して、酪農が直面する課題に柔軟に対応しつつ、SDGsや物流問題に関する社会的要請に応え、さらに本会の収支安定化を図るため、実効ある行動を着実に積み重ね、成果を出さなければならない。

このことを事業推進の基本に据えて、①酪農経営環境の安定化、②酪農経営の持続力向上、③酪農生産物

の販売強化、④組織運営の効率化と財務体質の充実、⑤ガバナンスの強化、の事項ごとに施策を展開する。

II 重点実施施策

1. 酪農経営環境の安定化

(1) 搾乳用後継牛の確保

①各種研修会を通じ、搾乳用後継牛の確保を目指した経営展開に関する資料（「儲けるためにホルをつけよう」等）を用い、計画的なホルスタイニング、性選別精液の活用を啓発する。また、育成費用等の資金繰りなどに関して提案する。

(2) 搾乳用素牛の産地資源状況を発信し、Ce^セTi^{ティ}Im^{イム}サービス（牛

個体識別情報管理サービス）を活用した庭先購買の他、展示購買等も行い、会員の乳用牛導入事業が円滑に行われるよう努める。

③搾乳用後継牛確保を図るために、全国連としてのネットワークおよび補助事業を活用した広域的預託事業を実施し、併せて国内粗飼料の有効活用につなげる。また、受入態勢を拡充した若齢預託矢吹牧場と若齢預託熊本牧場を充分に活用することで、より多くの酪農家の労働力の軽減と自家産後継牛の確保を推進するとともに、販売預託事業の円滑な運営にも資するよう整備する。

(2) 需給環境に対応した生乳販売体制の構築

①国内の飲用需要に応えるべく取引先乳業者に対して指定生乳生産者団体と連携して適切に生乳を供給するとともに、北福岡工場及び関連乳製品工場における乳製品製造・販売を通じて需給調整を実施する。

②都府県の需給調整を担う乳製品工場の更新に対して、稼働開始時期を定め、設備投資工程を明確化した上で実施に向けて推し進める。

(3) DMS（酪農家経営管理支援）システムの更なる支援強化

①DMSシステム利用者に対して、個別経営診断や蓄積データを集計・分析し、検証結果と課題解決のための助言・提案を行う。

②支所及び会員職員との連携を強化し、ユーザーの経営データを継続的に取得することで、当該地域における酪農経営の実態を把握し、生乳生産予測や経営安定に寄与する。

③DMS事業による経営改善の取組みの中で、省力化・効率改善を図ることで経営改善につながった事例をモデル改善事例として発信する。

④運用を開始した「ゼンラク酪農簿記（Z^ジIRABO^ボ）」や補助システムを活用することで、記帳作業の更なる効率化・省力化を図り、酪農会計初心者でも容易に会計管理を行える手法を確立する。

⑤「ゼンラク酪農簿記（Z^ジIRABO^ボ）」専用サポートセンターの更なる継続的な安定運用を目指す。

⑥法務や税務に関する案件についても対応できるよう、酪農・畜産を専門とする税理士、司法書士、中小企業診断士等との地域ネットワークを継続的に構築していく。

(4) 後継者の確保・育成

- ①酪農就農を志す人材を酪農ヘルパー全国協会、畜産系大学など新たな連携により発掘し、酪農関連全国組織としての知識・技術の提供を行うことで「将来の酪農の担い手」を育成して酪農就農に繋げる。
- ②「全酪アカデミー」の賛助会員並びに特別会員の輪を広げ、本事業を国内の酪農業界全体で取り組む事業とすべく業界紙などメディアを用いて周知活動に努める。
- ③酪農ヘルパー全国協会と連携し、新規就農希望者の研修の場としても位置付けられる酪農ヘルパー養成研修などの事業に支援を行い、生産者の経営継続に寄与する。
- ④全国酪農青年女性会議が行う後継者相互の情報交換・研修等の活動に対して支援を行うとともに、理解醸成活動や酪農現場における青年・女性の活躍を広く発信する。また、各地域における酪農青年女性会議の構成員減少等に対応し、酪農発表大会の開催方法についても協議・検討を進める。さらに、同会議と畜産系学生や新規就農希望者との交流や研修会などの場を作ることで、酪農就農への意欲高揚につなげる。

(5) 組織強化の取り組み

- ①会員の要望に則した本会職員や組織整備推進アドバイザーによる助言、情報提供等を行うことにより、現状に則した会員組合の組織整備を支援する。
- ②会員理事、監事、職員を対象とした実践的研修会を開催し、酪農専門農協としての組織機能強化や会員農協組織の経営安定・強化に関する事項について情報提供を行う。
- ③酪農関連全国組織に求められる目的を効率的に果たすため、組織機能の整理・統合について全国酪農協会と立ち上げた事業協力・組織効率化協議会により検討する。

(6) 政策の提言

持続可能な酪農生産基盤の構築につながる政策（各種補助事業、制度など）について、関係団体との定期的な協議や、酪政連の地域ブロック協議会との連携を強化し、提言を行う。

2 酪農経営の持続力向上

(1) 哺育飼料の供給体制の更なる強化

- ①哺育飼料に関する情報収集及び国内外の大学等の外部研究機関と共同研究を継続実施し、生産現場での子牛の事故率低減や将来の泌乳

能力の向上に寄与する技術の開発・普及に取り組む。

- ②研究開発、製品改良、製造、品質管理から供給まで各関連部署が一体となって供給数量の拡大を図る。製造と品質管理については、日本ミルクプレイサーと継続的に連携する。

- ③供給数量の拡大に向けて、供給販路の開拓ならびに新たな機能性を付加した製品の検討を進め具体化する。

- ④購買事業に関わる職員の哺育に関する知識の底上げを図るため、階層別に定期的な研修会を継続開催する。また、職員の哺育飼料への意識強化のため、十分な知識を習得した職員への内部認証制度の運用を継続する。

(2) 生産性の持続的な向上に貢献する高品質な生産資材の供給

- ①会員と連携した指導購買の一層の拡充を図り、変化の激しい酪農情勢下における会員及び酪農家のニーズに沿った提案をすることで、直営製品供給数量の維持・拡大を図る。
- ②飼料添加物などの生産資材について、各関連部署及び各仕入先との連携を二層強化し、会員及び酪農家のニーズに合った製品や生乳生産の

向上、生産現場の省力化に資する製品の提案により、供給数量の拡大を図る。また、環境負荷に配慮した技術情報や生産現場が直面する課題に関する情報の収集を強化し、将来の製品供給の可能性を探る。

自給飼料関連については国や行政の施策や補助事業の動向を注視しながら、生産現場における種子、肥料、その他生産資材の提案機会を増やす。

- ③粗飼料事業について、ゼン・トレーディングと二体となり、海外サプライヤーや海運会社との連携を強化し、流通コストの低減と安定供給に努める。また、変化が激しく不安定な産地情勢においても、会員及び酪農家とのコミュニケーションをより一層強化し、ニーズにあった粗飼料を供給する。国内の需給動向を的確に捉えたうえで在庫管理を徹底し、コスト削減に努める。

- ④世界各国の産地情報を的確にとらえながら飼料原料の安定確保と在庫管理に努める。全酪連グループ飼料工場との連携の下、適切な設備更新を行うとともに、各工場で設定したGMPに基づき、安全・安心で高品質な製品の安定供給に

努める。直営製品及び受託製品の製造数量の増加による工場稼働率の向上ならびにコストの低減を図るとともに、飼料工場の将来的な運営体制について、他社等との連携も含め検討を行う。

(3) 生産性向上に向けた人員体制の構築

①多様化している生産現場の要望にも対応するべく、階層別・分野別の教育プログラムを、関係各所との連携の上、WEB等による合理的な方法を用いて実施すること、受講環境の充実を図るとともに、幅広い情報提供に努める。

②購買事業と畜産事業が一体となり、多様な視点から会員・生産者の生産性、効率性を高めるサポートを行い、生産者の意欲を支えることができる人材の育成を継続する。

(4) 酪農経営における労働生産性の向上

①搾乳ロボットおよび哺乳ロボットに関する技術普及に対応するために、関係機関や各支所とともに定期的な情報共有を行い、生産現場へ還元できる体制を強化する。

②先進技術(IT/ICT/IoT)を用いた製品の開発協力や生産現場へのサービスの普及を支援する仕組みを構築する。

(5) 持続的な酪農経営に寄与する研究開発

①研究開発部門と国内外の大学等の研究機関との更なる連携強化を継続し、新たな技術や情報を製品開発に繋げる。

②「全酪連酪農セミナー」をはじめ、各研修会により最新の生産技術情報を提供するとともに、生産性向上に向けた製品の開発・供給と、飼養管理技術の普及を図る。

③飼料分析の活用促進では、分析センターによるデータ集積を継続し、生産現場では分析データを活用した飼養管理技術の普及を図る。

(6) シャインコースト株式会社が運営する福島復興牧場との連携

①シャインコースト㈱が運営する福島復興牧場開設に向け、シャインコースト㈱及び関係機関と連携し、開設準備を進める。

②耕畜連携による持続可能な地域循環型農業の実現に向けて、復興牧場周辺地域において、行政機関、国の研究機関、民間企業、農業法人等と連携し試験・研究を実施する。

3. 酪農生産物の販売強化

(1) 全酪ブランド乳製品の販売推進
“全酪ゴーダチーズ”について、

製造工程や仕様見直しによる品質改善と風味改良を行い、その他“全酪ブランド”乳製品も市場のニーズに応える改良を図ることで、国産乳製品の販路拡大と国内の酪農家と消費者のつながりも深め広げる。

(2) 会員乳業者等との連携強化による販路拡大

自工場製品及び会員乳業者等からの外部仕入品の取扱による安定供給体制の構築と、販売推進においては会員乳業者や全酪フーズ等関係会社との連携を一層深めることで、販路と事業の拡大を図る。

(3) 乳製品製造販売体制の強化

①FSSC22000に基づく食品安全マネジメントシステムの更新及び運用を通じ、製造にかかわる人員の食品安全文化に対する意識の定着を図るとともに、現行の製造体制強化と、お客様へ安全安心な食品を提供する。

②現行設備老朽化の課題と工場更新の検討内容を精査したうえで、必要な補修ならびに設備投資などにより、設備の維持管理と、効率化による生産性の向上を図る。

③北福岡工場ならびに各委託製造先との十分な連携により、計画的な

生産体制の構築と安定的な仕入販売による数量・売上及び利益の確保を図る。

(4) 生体牛及び食肉の取扱いの強化

①酪農家で生産される初生子牛や肥育素牛については、会員と連携を強化し、より効率的な集畜体制を構築するとともに、肥育農家への安定供給を図る。また、酪農家が国産牛肉の生産を担っていることを消費者へアピールし、ストーリー性を持つて有利販売を図り、食肉事業の拡大に努める。

②畜産事業に関する本会職員の知識を深めるとともに、選畜技術や肥育技術、食肉業界の知識を有したスペシャリストを育成し、生体牛の取扱頭数の拡大に繋げる。

③物流問題が課題となる中、会員及び関係機関から情報収集し、効率的な集配配送体制の構築に取り組む。

4. 組織運営の効率化と財務体質の充実

(1) 共通管理部門の最適化

①業務全般のデジタル化により、内部統制機能を維持しつつ、効率的な業務環境を構築する。

②業務集約を進めるとともに、将来的な組織体制の構想を明確にする。

(2) 本会職員の確保・育成

① 新卒採用の確保に向けた多様な働きかけ、中途採用の通年実施を通じて本会の職務を担う人材を継続的に確保する。

② 多様な働き方や個性と能力を生かし職員の意欲を更に高める労働環境を整備する。

③ 職員のスキルアップを目的として、体系的な教育研修の更なる充実と自己啓発環境の整備を進める。

(3) 財務基盤の充実

① 全酪連グループ内の資金及び保有資産の効率的活用を推し進めるほか、製造物の生産コストや在庫数量の変動が及ぼす資金動向を注視し、資金需要に対して適切な調達を図るとともにその管理について徹底する。

② 酪農環境の変化に対処していく上で、今後、必要となる設備投資等の事業活動に備えるため、安定した収支の確保と財務基盤の充実に努める。

(4) 基幹システム安定稼働

メーカー保守が終了するデータウェアハウスシステム（経営情報分析に係わるシステム）について、利

便性向上とコスト軽減を目的として再構築を行う。また、購買・販売システムの更新作業を開始する。

5. ガバナンスの強化

(1) 内部統制機能の強化

業務のデジタル化に合わせた業務フローの変更と共に職員への普及を徹底し、内部統制機能の強化と業務効率化の向上を図る。

(2) コンプライアンス経営の推進

① コンプライアンス年間推進計画に則し、研修・勉強会等を通じて職員のコンプライアンスに関する意識の醸成を促すとともに、コンプライアンスに関するリスク・アセスメントを実施する。

② 事業関連法規の制定・改正情報を収集し、遅滞なく関係部署に提供するとともに、適正な対応が行われるよう関係部署への助言等を行う。

(3) 事業継続計画（BCP）の実効性向上

「新型インフルエンザ対策と事業継続計画」及び「地震等防災対策と事業継続計画」の内容について、最新の知見を基に検証し、必要に応じて内容を改正する。

(4) 品質保証システムの継続的改善

① 法令の改訂に併せて品質関連規定の内容を検証・整備し、工場が定めた品質管理システムの運用状況について、作業確認を中心に監査項目に組み込んで監査を行う。

また、品質監査の指摘事項に対する有効かつ継続性のある是正処置及び類似事項の再発防止策の指導、助言を行う。

② 乳製品工場においてはHACCPシステムに基づいた衛生管理について、配合飼料工場においては、GMP適合認証取得後の運用について、関係部署を支援する。

③ クレーム管理システムのデータを有効に活用し、是正措置の構築

や、継続的な再発防止策の実施を支援する。

(5) 内部監査機能の強化

① 専門的知識に基づいた厳格な自主検査・内部監査を実施するため、引き続き農業協同組合内部監査士の資格取得を推進する。

また、内部監査往査時等において、内部統制に関する勉強会を開催することにより、全酪連全体として管理意識の向上を図る。

② 内部監査業務においては、内部統制の有効性評価だけではなく、リスク評価の実施や業務効率化の視点からの助言（改善提案）にも積極的に取り組み、内部監査機能のさらなる強化に努める。

① 年度別売上高

(単位：百万円)

部門 / 年度	令和6年度 実績見込	令和7年度 計画
酪農事業	7,186	7,309
購買事業	90,627	89,451
合 計	97,813	96,760

(注) 科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、加減算値が合致しない場合がある。

② 年度別経常利益

(単位：百万円)

年 度	令和6年度 実績見込	令和7年度 計画
経常利益	1,281	378

(注) 令和6年度見込には、棚卸評価替等の決算処理は含んでいない。

酪農乳業需給変動対策特別事業

令和7年度よりスタートします

(事業実施主体：(一社)Jミルク)

新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)が猛威を振るった令和2年からの数年間、我が国の牛乳乳製品の需給バランスが大きく崩れました。全国の学校の休校や、緊急事態宣言発令による移動制限により牛乳の消費が減退したことから、牛乳の廃棄を回避すべく、全国各地の乳製品工場はフル稼働で乳製品製造を続けることとなりました。その結果、令和4年5月の脱脂粉乳在庫は、過去最高の10万tを上回る水準まで膨らみました。

このため、「学校給食用牛乳の供給停止に伴う需給緩和対策事業(飼料転用対策事業)」をはじめとする乳製品在庫削減対策が措置され、令和4年度からは、生産者と乳業者からの拠出に国

の支援も加わった「酪農乳業乳製品在庫調整特別対策事業(事業実施主体：(一社)Jミルク)」が実施されました。各種の取り組みを通じて脱脂粉乳在庫は、令和6年度末で5・4万t程度まで削減される見通しとなっています。

このような経験を踏まえ、生産基盤を毀損することなく、乳製品の過剰在庫など不測の事態による乳製品の需給変動に迅速に対処できる準備を生産者と乳業者が協働で構築することを目的に、今年度より「酪農乳業需給変動対策特別事業(事業実施主体：(一社)Jミルク)」が実施されます。本事業は、有事の際に使用する「保険」的な位置づけとして新たな基金を造成し、「1. 乳製品在庫削減対策として、

酪農乳業需給変動対策特別事業 必要金額試算(拠出単価の設定)

①乳製品在庫削減対策(参考① 脱脂粉乳にて試算)

項目	想定対策数量	助成単価(飼料向け)	必要金額①
価格差助成	45,350トン	310円/kg	14,058,500千円

参考 助成単価試算

大口・利益等	販売価格	助成単価
656	346	310

円/kg
飼料工業会における本年の入札結果(4回)を踏まえた(平均)推定国産脱脂粉乳価格を使用
2,378ドル/トン 為替 154円

②乳製品在庫調整保管対策

項目	保管費用	荷役費用	輸送費用	必要金額②
保管経費等	1,023,500千円	54,420千円	362,800千円	1,440,720千円
試算条件	・47ヶ月保管 (全国運送料使用量1,000t/月) ・保管料 0.5円/kg/期(3期)	・荷役料 0.6円/kg/片道	・輸送費 8円/kg (関東圏内 8万円10t車)	

③需給変動対策必要金額(①+②)

必要金額①	必要金額②	対策必要金額
14,058,500千円	+	1,440,720千円
		= 15,499,220千円
		≒15,500百万円

④基金造成必要金額

生産者拠出金額	乳業者拠出金額	基金造成必要金額
7,750百万円	7,750百万円	15,500百万円

生産者・乳業者の拠出を1:1とする

在庫削減のために脱脂粉乳等を飼料用への転用等、新規需要の創出に資する特定市場に販売する取り組みや、過剰在庫を長期保管する取り組みへの支援、「2. 計画的増産対策として、著しく将来に生乳生産量の不足が予測される場合の対策」の2本を大きな柱としています。

基金の規模は、過去の脱脂粉乳の在庫過剰時に要した在庫削減数量と単価に基づき、対策に必要とされる必要金額を155億円と算出されました。全国の生産者、乳業者に対する拠出単価は、基金の造成期間を7年間と設定した結果、生乳1kg当り15銭を拠出することとしています。

基金の発動要件は、乳製品の在庫水準が一定の基準を上回った若しくは下回った際に発動するなど、今後（一社）Jミルクの「戦略ビジョン推進特別委員会」等において協議されることとなっています。

同時に、農林水産省より「生乳

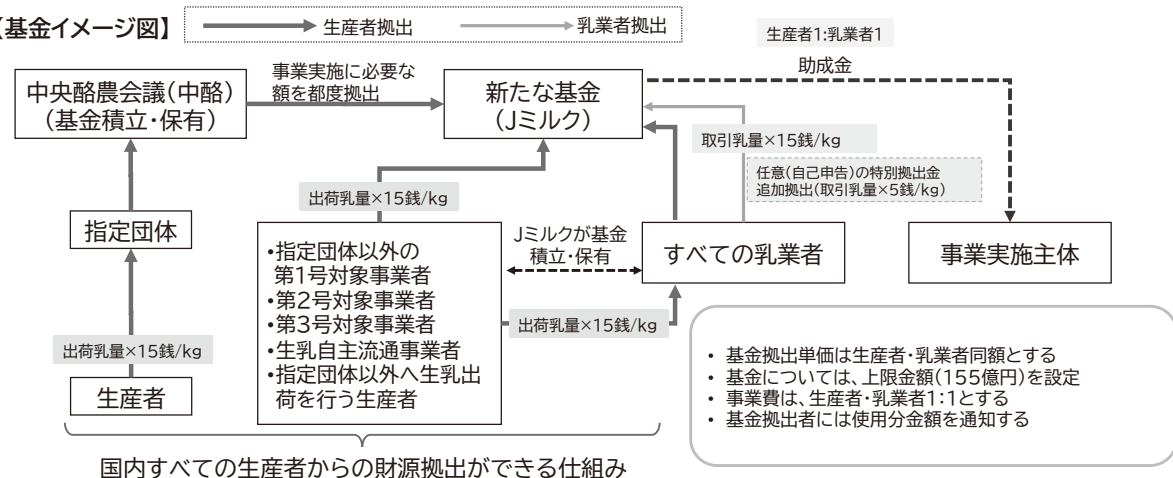
需給安定クロスコンプライアンス」が、導入されます。「国産チーズ生産奨励等事業」、「生乳流通改善緊急事業」や「乳用牛長命連産性等向上緊急支援事業」などの補助事業の交付の要件として、全国的な需給安定の取組みへの拠出をしていること等が要件となり、「酪農乳業需給変動対策特別事業」に参画することへの後押しとなることが期待されます。

我が国の生乳需給は、飲用需要の変動を乳製品加工で調整することにより、酪農経営、乳業経営の安定を図る構造となっています。ひとたび生乳需給が過剰に緩和すると乳製品在庫の積み増しに加え、乳製品工場を有するメーカー及びその地域の生産者に需給調整の負担が集中するなどの課題が、新型コロナウイルスをきっかけに顕在化しました。需給調整の恩恵は、全国すべての生産者、乳業者が享受していることに対する理解を深め、基金造成への参画を促す取組みを本会としても続けてまいります。

酪農乳業需給変動対策基金の概要

国内におけるすべての生産者、乳業者からの財源拠出により造成するものとし、その拠出方法及び管理等については、別に定める「酪農乳業需給変動対策基金要領」によるものとする。拠出額は、生産者・乳業者ともに需給変動対策金として取引乳量×15銭/kgの拠出を関係団体等の協力を得て依頼。

【基金イメージ図】



国内すべての生産者からの財源拠出ができる仕組み

オンラインカジノによる賭博は犯罪です！

最近、オンラインカジノによる賭博について、著名なタレントやスポーツ選手らによる利用、あるいはその疑いが発覚するなどして、世間の関心が高まっています。日本国内からオンラインカジノを利用して金銭等を賭ける行為は、法律で禁じられています。本会関係者におかれましては、このことに十分留意いただきますようお願いいたします。

オンラインカジノによる賭博とは

スマートフォンやパソコンなどによりオンライン上でゲームを行い、その結果に対して現金や暗号資産、電子マネーなどを賭ける行為です。

スロットやカードゲーム以外も対象

いわゆる「カジノ」のイメージから想起されるスロットやカードゲームに限らず、スポーツの勝敗予想やゲーム結果に金銭等を賭ける行為も利用が禁止されています。

法律に基づいて運営される公営の競馬や競輪、スポーツ振興くじなどは、運営実態からして全くの別物です。

日本国内での利用は犯罪

海外ではオンラインカジノを合法としている国もありますが、日本国内での利用は犯罪に該当します。

どんな犯罪？

刑法第 185 条では「賭博をした者は、50 万円以下の罰金又は科料に処する」（賭博罪）とされ、第 186 条では「常習として賭博をした者は、3 年以下の懲役に処する」（常習賭博罪）とされているほか、日本国内でオンラインカジノの決済や広告・宣伝に関与すると、「賭博幫助」な

どの罪に問われることがあります。

検挙例

オンラインカジノの利用者や決済に関わった者、オンラインカジノを広告・宣伝した者など、2023 年には 107 人が検挙され 2024 年にはその倍以上となる 279 人が検挙されています。

簡単に利用が可能

オンラインカジノの多くは、一般のオンラインサービスと同様、サイト上でアカウントを作成し、口座情報やクレジットカード情報を登録すれば、誰でも簡単に始められる仕組みになっており、なおかつ日本語に対応したサイトも多く出回っています。こうした気軽さもあり、違法性を認識することなく犯罪に携わってしまう危険性があることに留意する必要があります。

オンラインカジノの危険性に関する詳細は以下もご参照ください。

●政府広報ホームページ

➡ <https://www.gov-online.go.jp/article/202411/entry-6786.html>

●警察庁ホームページ

➡ <https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/hoan/onlinecasino/onlinecasino.html>

「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」 「貨物自動車運送事業法」の施行について

荷主企業、物流事業者、一般消費者が協力して我が国の物流を支えるための環境整備を目的として、改正「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」「貨物自動車運送事業法」が、一部を除き令和 7 年 4 月 1 日から施行されました。

関係事業者における理解促進のため、制度の概要や、

努力義務の対象となる「荷主」の定義、「判断基準」・「解説書」の内容を紹介する「物流効率化法理解促進ポータルサイト」が公開されています。また国土交通省、経済産業省、農林水産省において、改正の概要、荷主の判断基準の解説書等が公開されています。併せてご参照下さい。

●物流効率化法理解促進ポータルサイト

➡ <https://www.revised-logistics-act-portal.mlit.go.jp/>

●国土交通省

➡ https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/seisakutokatsu_freight_mn1_000029.html

●経済産業省

➡ <https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/butsuryu-kouritsuka.html>

●農林水産省

➡ <https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/250327.html>

日本酪農 見て歩紀

No. 383

斎藤牧場

福島県喜多方市

酪農仲間との交流が力に 斎藤牧場の未来への歩み

今回お話を伺ったのは、福島県喜多方市で酪農を営む斎藤牧場です。所属している福島県酪農業協同組合（紺野宏代表理事組合長）は、酪農家戸数100戸（令和7年1月31日現在）、出荷乳量39,000t（令和5年度実績）となっています。

地域の紹介

会津の北部に位置していたこときたかたから北方と称されていましたが、明治8年、昭和29年の町村合併により喜多方市となり、平成18年に喜多方市、塩川町、山都町、熱塩加納村、高郷村の1市2町2村の5市町村が合併し、現在の喜多方市となりました。市の産業は、昭和40年頃までは、稲作を中心とした農業が基幹産業でしたが、現在は非鉄金属、繊維、弱電などの製造業や建設業に移行してきました。南に那須連山、東に名峰磐梯山、西に霊峰飯豊山を望め

る豊かな自然に恵まれており、三ノ倉高原のひまわり畑、飯豊連峰の高山植物、ヒメサユリの群生、雄国沼のニッコウキスゲなど豊かな自然を満喫できます。また、新宮熊野神社「長床」、願成寺、中善寺など、日本でも屈指の仏都を象徴する文化財も多く残っています。喜多方市は日本3大ラーメンの1つ「喜多方ラーメン」で有名ですが、牧場がある山都



福島県喜多方市

町は「そば」の名産地として有名です。牧場の近くにある山都そば伝承館では、山都町で収穫されたそばの実を使用した山都そばを食べることができます。特に、新そばの時期になる10月からより一層おいしいそばを味わうことができます。



牧場の概況

現在の飼養頭数は経産牛30頭（うち乾乳5頭）、育成牛19頭、日乳量は約900kg、経産牛1頭当たり年間成績は約10,400kgとなっています。対尻式のつなぎ牛舎で経産牛、2力所の独房で初妊牛と乾乳牛、別棟の哺育舎で哺育牛を管理しています。育成牛は3カ月間の哺育のち、県内の哺育センターと北海道に預託しています。牧場主の忠義さん（39歳）が給餌・徐糞作業、奥様の麻貴子さん（40歳）が搾乳・哺育作業を担当しています。近年は自給飼料の生産に取り組んでおり、デントコーン3町歩、稲WCS3町歩、草地1町歩ほど作付けしているほか、8町歩ほどの水稲も兼業しています。

昭和24年に山都町で育成牛が10頭導入され、その内の1頭を忠義さんの祖父の叔父が導入し、生まれた雌子牛を祖父が譲り受け昭和30年に1頭の子牛から祖父が酪農を始めたのが斎藤牧場の始まりです。忠義さんが高校3年生で進路について迷っている中、当時は水稲のほかにアスパラガスの作付けも始めていたため祖父が酪農を継続するのが困難でやめる

方向でしたが、祖父から始まった歴史ある酪農を受け継ぐことで、家族の中でも地域の中でも自分にしか出来ない誇れる仕事になると思い酪農を学ぶために酪農の大学に入ることを決めたとのこと。大学では酪農全般を学び、卒業後は十勝で酪農ヘルパーとして働くことさらに経験を積んでいきました。その時に現在の奥様である麻貴子さんと出会っています。23歳で喜多方に戻り祖父から引き継いだ1頭のほかに、初妊牛1頭、育成牛1頭を導入しスタートしました。平成27年にクラスター事業を利用して牛舎と堆肥舎を新設し現在の頭数まで増頭しています。また当時は46馬力のトラクターしかなく自給飼料の生産は厳しい状況でし



たが、元酪農家から機械を譲り受けたことや近隣の稲WCS生産組合から声をかけてもらい一時断念していたデントコーンサイレージ（DCS）生産を再開するなど、徐々に自給飼料の確保ができました。

経営のこだわり

就農当時から酪農と水稲の両立を掲げています。近年では近隣農家の高齢化により廃業が進み農地が増えているとのことですが、DCSへ転作したり、喜多方市の指定特別栽培米「有機の里」の生産に取り組んだりしています。堆肥処理については、近隣のアスパラ農家やきゅうり農家に需



要があり積極的に地域還元に取り組んでおり、時期によっては不足することもあるそうです。また酪青女活動や自給飼料・水稲の作業で日中に牛舎にいないことが多いため作業効率化にも力を入れ、ファームノートの導入で発情発見や繁殖管理を行い繁殖成績の向上に役立て、分娩カメラ

の設置で事故低減にも努めています。最近ではゲノミック評価による牛群改良にも取り組んでおり、順調に個体乳量を伸ばしています。今後は冬季での堆肥処理が毎年の課題であることから糞尿分離機と、作業省力化を目的に自動給餌機の導入を検討しているとのこと、自給飼料や水稲の忙しい作業時期、酪青女活動でヘルパーを利用する時などでも、変わらずに牛の管理を丁寧に行いたいということです。

酪友との関りも大切に

ご夫婦揃って酪農青年女性会議の活動に積極的に参加しています。忠義さんは就農してすぐに福島県酪農青



年研究連盟の役員となり活動しているうちに、酪友との繋がりが増えたことで作業機械を譲ってもらったことがきたり、自身の見聞を広げることができたりと現在の経営にとっても役立っているといえます。周囲の酪友にも活動の参加を勧めたいという思いもあり、現在は東北酪農青年女性会議の委員長を務めています。麻貴子さんは同地域の酪友から婦人部のやまびこ会に誘われたことがきっかけで活動に加わるようになりました。秋田県出身で知り合いがいらない中、酪農を語り合う仲間に救われたと話されていました。忠義さん同様に自身の成長にも繋がるこのような機会をなくしてはいけないとの思いでやまびこ会の会長を務めています。

あとがき

この度は大変お忙しい中、取材を引き受けてくださりありがとうございます。1頭の牛から酪農を始めていく状況で酪農と水稲の両立を第一に掲げ、作業効率化を目指していく中でどうしていくか、日頃から酪友との輪を広げながら自身の見聞を広げて経営に役立てていきたいという熱い想いがとても伝わりました。今後の斎藤牧場の益々のご発展をお祈りいたします。

らっしゃいます。お2人にとって各活動は生活の一部になっており、経営の一助にもなっています。



札幌
支所発多くの酪農家に支えられ、北海道も50回！
～第50回北海道酪農経営発表大会開催～

3月27日(木)、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、北海道酪農青年女性会議主催、第50回北海道酪農経営発表大会が開催され、全道より関係者合わせて約70名が参加しました。50回目となる今大会においては記念式典を開催し、北海道農政部生産振興局長をはじめとしたご来賓によるご祝辞のほか、長きにわたり会議を支えてくださった功労者への感謝状授与、歴代の事務局長紹介により、大会を祝しました。

今大会では、経営部門で標茶町の大宮睦美氏、意見体験部門で厚岸町の澤口裕斗氏が発表されました。大宮氏は2017年に第三者経営継承で新規参入者として標茶町に就農されました。明確な目標に向かって各専門家とチームを組んで経営に取り組み、高品質な自給飼料と牛の能力を最大限に引き出す管理によって厳しい環境下においても売り上げを伸ばしています。

一方の澤口氏は社会人経験を積み2022年にご実家に就農され、飼養管理の改善に加えて、持続可能な経営を目標に化成肥料の減肥に取り組まれています。高いコミュカ・向上心を持ち、他の酪農家や関係会社・団体との繋がりをつくり、勉強会や情報収集、同時に情報発信といった活動をされています。

大会後の講演会では、50回大会記念の特別講演としてHBC北海道放送の森結有花アナウンサーをお招きしました。森氏は北海道の農業を紹介・応援する番組でも活躍されており、講演ではその番組を通じて向き合った道内酪農家とのやり取りを通じて、「酪農家は消費者の暮らしを豊かにしている。酪農はカッコいい！酪農家はすごい！」と生産者にとっては日常である「酪農」の素晴らしさを消費者の目線でお話しされました。同時に「皆さんには胸を張って酪農の魅力をもっと発信してほしい」と生産者による発信の重要性についても熱く語られ、そのためにテレビやラジオもぜひ活用してください、と今後につながる提案もいただきました。

最後に、閉会の挨拶に立った浅野副委員長は「今後の酪農を盛り上げていくためには、担い手の確保が重要。若い世代に向けて酪農は楽しい、工夫次第で稼げるということを発信していきたい。そして、皆で前向きな努力をして次の50回につなげていきたいと思う。」と大会を締めくくりました。

北海道酪農青年女性会議が多くの方に支えられてきたことを実感する大会となりました。(T.H)



▲ 発表者の大宮氏(左)と澤口氏(右)



▲ 今大会の運営に大きく尽力いただいた北海道酪青女役員
(左から)中山委員長、遠藤副委員長、浅野副委員長



◀ 会場との意見交換会
現役大学生からも質問が上がった。
「(サークルで様々な酪農家を見て)今までのやり方が通用しないような状況の中、発表者のように改善して結果を残せる酪農家が少ない。改善できる人とそうではない人の違いは何か。」



▲ 森 結有花アナウンサー。講演は熱い内容であったが、気さくな人柄で、懇親会では「森アナ待ち」ができていた



▲ 講演会では、クイズに答えて景品をもらってお楽しみ企画も！「(写真を見て)北海道で育つの？という作物です、何でしょう？」



仙 台
支所発

「第52回東北酪農青年女性会議酪農発表大会」開催 東北代表は 羽隅匠さん(山形県)、椎谷美保さん(福島県)

令和7年3月24日(月)、宮城県仙台市太白区秋保町「ホテル ニュー水戸屋」にて、東北酪農青年女性会議(斎藤忠義委員長)主催の第52回酪農発表大会が、東北各地から120名の酪友・関係者の参加にて開催されました。

今回の東北大会は、試みとして発表者(経営部門・意見体験部門)を大会開催県以外の県からとし、大会聴衆参加者の多かった開催県の酪友・関係者に他地域の生産者の取組を知っていただく開催としました。

経営の部では、山形県酪農青年女性会議の羽隅匠^{はすみ}さんが『20代後世でも続けられる酪農経営を』と題して発表されました。羽隅さんは、大学卒業後、実家の羽隅牧場に就農しました。就農後、大学時代の経験を含めた自家育成の強化やゲノム分析による牛群改良に取組み、また、牛舎環境の改善や飼料設計の見直し

にも努め続け、昨今の猛暑が続く中、乳量や繁殖成績を向上させました。今後はゲノム分析を含めた更なる牛群改良、育成牛の環境整備による個体販売、省力化による飼養管理の改善などを目標としていることを発表されました。

続く意見・体験の部では、福島県酪農青年研究連盟の椎谷美保^{しいや}さんが『牛の幸せは私の幸せ』と題して発表されました。化粧品メーカーの美容部員であった椎谷さんが酪農家のご主人と出会い、結婚と同時に就農し牛の可愛さや酪農に魅了され続けてきたこと、“アニマルウェルフェア”の考えに感銘し自牧場で取組んでいること、牧草の100%自給にこだわった飼料作りに努めていることなどが発表されました。

羽隅さん、椎谷さんは、7月に岡山県岡山市で開催される全国大会へ出場します。(D.P)



東京
支所発

伊那酪農協青年部が「バスケットボール大会」をサポート！

長野県内の小学生がバスケットボールで熱戦を繰り広げる「第5回卒業記念大会in伊那 MILK CUP'25」が3月20日(木)にロジテック・エレクトロムアリーナ（長野県伊那市内）で開催されました。

このバスケットボール大会は、小学校を今春卒業する6年生を中心に長野県内のバスケットボールクラブが参加する、いわば6年生にとっては卒業記念の大会です。また、伊那酪農協青年部（網野雄二部長）にとっても、開催当初から協賛し盛り上げてきた大切なイベントです。

大会当日は春本番を思わせる暖かな晴天に恵まれました。長野県内から男女16チーム（279名エントリー）が出場し、チーム関係者や保護者を含めると総勢800名が参加するビッグイベントとなりました。

伊那酪農協青年部の皆さんは本大会運営のサポートに携わる一方、アリーナの各所で長野県産の牛乳や

ヨーグルトを提供したり酪農理解醸成活動のチラシ等を配布し、牛乳乳製品のいっそうの消費拡大を選手や保護者へ呼びかけました。

成長期にある青少年の健全な身体づくりや大人の健康維持に最適な牛乳乳製品の消費拡大について、選手の子どもたちも保護者皆さんもとても好意的に受け止めていただきました。また、アリーナ会場に掲げた牛の絵は子どもたちに好評で、試合の合間には牛や酪農のことを青年部の皆さんに興味津々に質問する子どももいました。

本大会は長野県内バスケットボールのレベルアップにも貢献しており、本大会にも出場した男子1チーム、女子1チームはU12全国大会への出場も決まっています。

伊那酪農協青年部では、これからも本大会をサポートしていく予定です。（F.I）



▲ 大会ロゴ

東京
支所発

「暑熱対策研修会」を開催しました

令和7年3月25日(火)、千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所にて、東京支所主催の「暑熱対策研修会」を開催しました。ZOOM配信も併用し、東京支所管内から約60名の酪農関係者にご参加いただきました。

講師には、全酪連大阪支所の永井秀樹技術顧問をお招きし、「～夏を制する者は酪農を制す！～暑熱対策で乳生産をキープしよう」と題し、暑熱ストレスによる影響や、屋根散水・ソーカー等による施設改善、飲水管理や飼料設計に関する具体的な対策をご講演いただきました。

研修会では、年々厳しさを増す夏の猛暑にどう立

ち向かうかについて活発な意見が交わされ、参加者の皆様も高い関心をもって耳を傾けていました。従来の暑熱対策では限界を迎えている現場の声を改めて感じるとともに、今後も情報提供と現場支援の強化が不可欠であると実感しました。

また、今回の研修会を通じて、暑熱対策の成功の秘訣の一つは「早めの準備」であることを改めて感じました。実際には暑さが本格化する前から、牛はすでに暑熱ストレスを受け始めています。そのため、生産者の皆様に対しては、対策の重要性和具体策を一体として早期に伝え、すぐにでも現場での対応に結びつけていくことが必要だと感じました。(K.K)

永井秀樹技術顧問 ▶



大 阪
支所発～第54回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会開催～
西日本代表は福田寛さん(鳥取県)、雲岡阿耶さん(岡山県)

4月10日(木)鳥取県米子市「米子コンベンションセンター」にて、西日本酪農青年女性会議(山下大介委員長)主催の第54回酪農発表大会が西日本各地から100名の酪友・関係者が参加して開催されました。大会は安富由美子副委員長(岡山県)の総司会を務め、砂子拓也副委員長(広島県)の開会宣言に続き、森原佳之副委員長(山口県)による綱領唱和で幕を開けました。来賓には、農林水産省中国四国農政局生産部畜産課の浦嶋明広課長(酪農経営の部・審査委員長)、鳥取県農林水産部の寺坂畜産振興局長、大山乳業農業協同組合の小前代表理事組合長を招き、ご祝辞を頂きました。酪農経営の部では「時間にゆとりを持てる酪農経営を目指して」と題しまして大山乳業農業協同組合青年部会の福田寛さんが発表され、意見体験の部では「れーちゃんとアタシの酪農」と題しまして

大山乳業農業協同組合酪農女性部の碓みち子さん、「世代を超えて支えあう酪農は共働きの理想形」と題しましておかやま酪農業協同組合女性部の雲岡阿耶さんが発表されました。審査の結果、酪農経営の部では福田寛さん、意見体験の部では雲岡阿耶さんがそれぞれ中国四国農政局長賞を受賞されました。大会終了後の懇親会は各会員から持ち寄った地元のお土産賞品の抽選会が始まり、大いに盛り上がりました。これから当会議の活動の目的の1つとしている酪友が集まりその輪を広げ、絆を強くする活動に取り組んでいきます。なお、福田寛さん、雲岡阿耶さんは7月に岡山市内で開催されます第52回全国発表大会において、西日本会議代表として発表されます。全国大会でのお2人のご活躍をお祈りしています。(A.O)



▲ 前列発表者の(左から3番目)碓みち子さん、福田寛さん、雲岡阿耶さん

福岡
支所発

めんそーれ沖縄！ 「第52回九州酪農青年女性酪農発表大会」開催

九州酪農青年女性会議（中村 俊介委員長）は、4月16日(水)、沖縄県糸満市の「サザンビーチホテル&リゾート沖縄」において、九州・沖縄管内の酪友・関係者128名の参加を得て、「第52回九州酪農青年女性酪農発表大会」を開催しました。

大会は、開催県の玉城盛作委員（沖縄県）が総会司会を務め、井手口明博副委員長（福岡県）の開会宣言に続き、中島千明委員（佐賀県）の綱領唱和で幕を開けました。その後、中村俊介委員長（熊本県）より主催者挨拶があり、来賓の農林水産省九州農政局生産部畜産課 佐野明課長、沖縄県農林水産部畜産課 真喜志修課長からご祝辞を賜り、発表に移りました。

なお、最優秀賞（九州農政局長賞）を受賞された高木さん・古川さんには、7月に岡山県で開催される「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」において、九州会議代表として発表していただきます。全国

大会でのお二人のご活躍を期待しております。

発表大会後には交流会を行い、九州・沖縄各地の酪友との親睦を深めました。アトラクションでは、沖縄県酪農農業協同組合 高宮城代表理事組合長の地元、「園田青年会」の皆さまに伝統芸能「エイサー」を披露していただきました。三線の音色と生歌、迫力のある太鼓の音と踊りを楽しみ、最後は皆で「カチャーシー」を踊り、大いに盛り上がりしました。

発表者の皆さま、日々の仕事で大変ご多忙の中、素晴らしい発表をありがとうございました。そして、後援・協賛団体ならびにご臨席いただいた来賓・審査員の皆さま、また、準備や運営に多大なるご協力をいただいた九州会議委員・各県事務局・開催県の沖縄県酪協の役職員・その他多くの関係者の皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。（B.Y）

●酪農経営発表の部

題 名	発表者	所 属
基本に忠実に ～継続は力なり～	平田 卓	ふくおか県酪農青年女性会議
高能力、低コストで目指す安定経営	高木 大輔	熊本県酪農青壮年部協議会
積小為大	首藤 祐作	大分県酪農青年女性会議

●酪農意見・体験発表の部

題 名	発表者	所 属
農業未経験、異郷の地で酪農に携わって3年	小川 瑛	沖縄県酪農青年女性部連絡協議会
夢を叶えた、その先へ ～モーモー母ちゃんDX～	古川 真弓	佐賀県酪農婦人部連絡協議会
酪農0からスタート、そして夢の実現に向かって	西ノ村幸美	鹿児島県酪農青壮年女性会議
人生は一度きり！！ ～ヘルパーからの新規就農～	佐藤 翔悟	熊本県酪農青壮年部協議会
三代目として次世代へ ～創造実践する酪農を目指して～	宮本 貞臣	長崎県酪農青年女性会議
Circle of Dairy	江藤健太郎	ふくおか県酪農青年女性会議
固定観念に囚われない 向上心を持って	岡崎 博則	宮崎県酪農青年女性連絡協議会



▲ 最優秀賞（九州農政局長賞）：
高木大輔さん（熊本県）



▲ 最優秀賞（九州農政局長賞）：
古川真弓さん（佐賀県）



◀ 農林水産省
九州農政局
生産部畜産課
佐野明課長



◀ 沖縄県農林水産部
畜産課
真喜志修課長



◀ 九州酪農
青年女性会議
中村委員長



▲ 交流会アトラクション
（園田青年会による
エイサー）



◀ カチャーシーで
大盛り上がり！



令和7年度乳価

飲用牛乳・はつ酵乳向4円値上げ
大手乳業と合意、8月分から適用

関東生乳販連は3月31日、大手乳業メーカー3社との間で進めていた令和7年度の乳価交渉について、飲用向けとはつ酵乳等向け乳価を「kg当たり4円値上げ」することで合意したことを明らかにした。

8月1日取引分より適用する。令和5年8月1日の10円値上げ以来、2年ぶりの値上げ。今後、その他取引先乳業と同一の内容での合意を目指して交渉を進める。（4月1日号）

新たな基本計画が決定

目標年度を10年後から5年後に変更
カロリーベース自給率45%を目指す

農水省の食料・農業・農村政策審議会は3月27日、5年後の令和12年度の食料自給率目標（カロリーベース）を45%とする新たな食料・農業・農村基本計

画案を江藤拓農相へ答申（写真）。4月11日に閣議決定した。昨年6月施行の改正基本法を踏まえた食料安全保障の確保に向け、今後5年間で集中的に農業構

造転換を押し進める。また、令和12年度を目標年度に生乳をはじめとした各品目ごとの目標とKPI（重要度達成度指標）を設定した。

新たな基本計画案は、3月27日に省内で開かれた食料・農業・農村政策審議会と同企画部会の合同会議で了承。従来までの基本計画は10年後目標としていたが、新たな基本計画では5年後目標へと見直し。今

回より、進捗状況を最低でも年1回は検証する旨を記載した。令和12年度の食料自給率目標は現行と同じカロリーベース45%（令和5年度実績38%）に加え、新たに摂取カロリーベース



53%（同45%）を設定。合わせてKPIとして各品目ごとの生産量なども設定した。このうち生乳は、令和12年度の生産量を現行水準並み（同）の732万tとした。（4月1日号）

ランピースキン病

家伝病と同程度の防疫措置可能に
7月下旬目途に対策強化へ見直し

農水省は届出伝染病であるランピースキン病の防疫対策強化に向けて、所要の変更を行うべく議論を開始した。これまで、家畜所有者が必要な措置を行うための支援・指導等を実施してきたが、法的強制力がなく感染が拡大した経緯も踏まえ、家畜伝染病と同程度の防疫措置を行えるように見直す。家畜伝染病予防法に基づき、7月下旬を目途に新たに政令を指定すべく検討を進める。
(4月10日号)

まん延防止対応

- ✓ 発症牛を自主淘汰した場合の再導入の支援（乳用初妊牛・肉用繁殖素牛60万円/頭）
- ✓ 出荷自粛中の生乳の適切な処理への支援
- ✓ 農場の消毒や吸血昆虫対策など、現場でのまん延防止措置への支援（来春に向けた適切な堆肥化処理の徹底等）
- ✓ 発生農場における有効な隔離の指導
- ✓ 発生県と連携した適切な情報発信
- ✓ 出品・出荷時の牛の健康状態の確認の徹底

需給変動対策が決定

生産者・乳業者ともkg 15銭抛出
基金で生産現場への影響最小限に

大幅な需給変動時への備えとして創設する常設の基金「酪農乳業需給変動対策特別事業」について、Jミルクは3月19日の臨時総会でその運用を正式に決

定した。抛出割合は生産者と乳業者が1対1、単価は生乳1kg当たり15銭（乳業者は任意で最大20銭）。概ね155億円の事業規模を想定しており、7年で最

大造成する。事業の構成は、①需給緩和時の「乳製品在庫削減対策」、②需給ひっ迫時の「計画的増産対策」——の2つ。①に

ついては乳製品の市場隔離や在庫消化対応等により対策を講じる。②の詳細は現在検討中。
(4月10日号)

令和6年10～12月期

全国平均F1交配率38・5%
性選別精液利用は過去最高更新

日本家畜人工授精師協会は3月18日、令和6年度10～12月期における乳用牛への黒毛和種の交配状況（F1交配率、速報値）を公表した。全国の交配割合は38・5%で、前期比1・3%減、前年同期比1・4%減。令和5年

7～9月まで4割を超えていたものの、前年同期から3割台で推移している。一方、全国における性選別精液の割合は24・8%（前期比1・3%増、前年同期比3・7%増）で、過去最高を更新した。
(4月1日号)

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円（税込・送料込）です。
- お支払（請求書到着後）は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。
(見本紙にバックナンバーは含まれません)

全酪新報/
購読お申込フォーム



一般社団法人 全国酪農協会

電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org



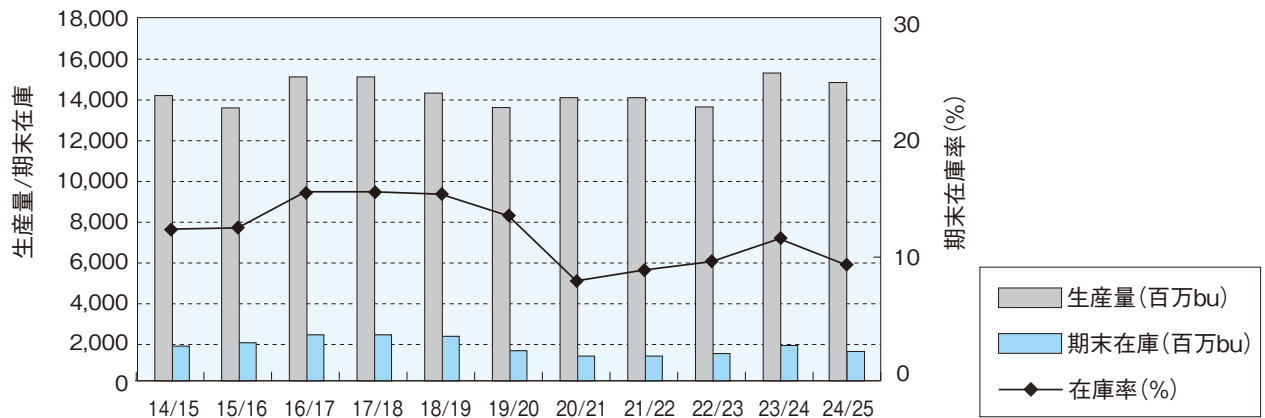


原料情勢

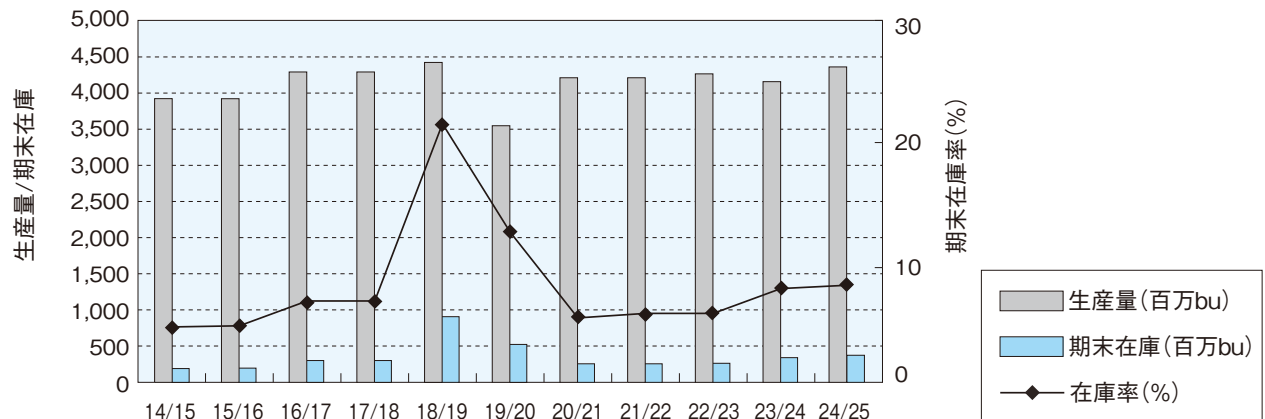
令和7年4月

		23/24年産	24/25年産
4月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	94.6	90.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3
	生 産 量(ブッシェル)	153億4,100万	148億6,700万
	需 要 量(ブッシェル)	149億6,600万	151億9,000万
	期末在庫(ブッシェル)	17億6,300万	14億6,500万
	在 庫 率	11.78%	9.64%
トウモロコシ 相場動向	今回の需給報告では輸出需要の引き上げから期末在庫が想定以上に減少する結果となった。このためシカゴ定期は大きく値を上げている。改めて米国産に需要があることが意識されており、今後は米国の天候等に注視する必要がある。		
大豆粕相場動向	昨今の中国との関税攻勢、足元の輸出需要、更にはブラジルから旺盛な輸出需要から不安定な相場となっているものの、米国・ブラジルの大豆は豊作予想であることや為替円高も相まって弱含みに推移している。		
槽糖類	【一般フスマ】 ふすまは引き続き飼料需要が低調で、小麦粉晩砕量は増えていることから受渡しは安定する見込み。		
	【グルテンフィード】 飼料需要が引き続き堅調な一方で、主製品の発生期であることから受け渡しは安定する見込み。中国国内のコーンスターチ工場の稼働率も例年対比高水準で推移しているものの、米中貿易摩擦を背景とした中国国内価格が上昇しているため注意が必要である。		
海上運賃	以前から米国が入港する中国関連船舶に課税する方針を示しており先行きの不透明感から、様子見姿勢となっており船舶需要は弱くなっている。米国積み出しの各航路については中国関連船舶への課税についての続報を待っている形で相場は持ち堪えている。今後は、入港税に関する動きには注視する必要がある。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



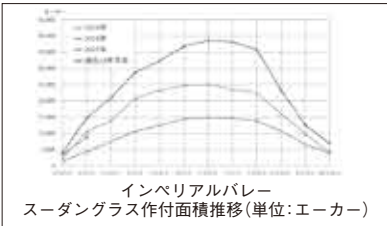
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和7年4月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸を中心とする航路では、本船スケジュールに乱れが生じており、主要な乗継航路を含め、混雑が続いています。2月の中国旧正月による減便が影響し、3月中旬から下旬にかけて米国西岸に到着する本船が少なく、その結果、空コンテナの不足が発生しており、船腹予約にも影響を与えています。日本国内においては、アジアの主要港で発生している港湾混雑の影響を大きく受けています。悪天候による荷役作業の遅れや、本船スケジュールの度重なる変更もあり、混雑状況が緩和する見通しも立っておらず、一部の船会社は蔵置場所の確保のためにオフドック（本船着岸岸壁から離れた場所）へコンテナを移送しています。さらに、米国では、トランプ大統領が就任以来、複数の関税措置の発動を表明し、各国と貿易に関する協議を行ってきましたが、4月2日には、貿易相手国に対する相互関税を課すと発表しました。この相互関税の導入により、世界規模での貿易摩擦がさらに激化する可能性が高まっており、今後の経済活動全体に深刻な影響を及ぼリスクも懸念されています。実際、発表後には株式相場が急落するなど、市場も敏感に反応しています。
ビートパルプ	ビートパルプの生産地であるノースダコタ州やミネソタ州では2024-2025年産の生産と製糖作業が終盤を迎えています。生産量は昨秋の温暖な気候の影響により、当初の予想よりも約10%減少する見込みです。この生産減少が、市場の価格や需給に対して、どのような影響を与えるか慎重に見守る必要があります。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、冷涼な気候が続いていますが生育は順調で、5月中旬から南部の圃場で25年産1番刈の収穫作業が開始される見込みです。産地在庫については輸出向けに適さない品質のアルファルファが僅かに残っていますが、相場低迷により輸出向けと米国内肥育向けの価格差が縮小しているため、多くが米国内向けに出荷されています。また、24年産の価格は生産農家に取って魅力的ではなく、他作物に転作した圃場もあったため、25年産の作付面積は10～20%減少すると予想されています。輸出需要については、日本向けは大きな変化はありませんが、中東向けでは高成分のアルファルファに対する安定した需要が続いています。中国向けは中国経済の低迷により、牛乳需要が減少し乳価が下落したことも相まって、アルファルファの需要も減少しています。 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、2025年産のアルファルファ1番刈りの収穫が大半の圃場で終了しており、2番刈りの収穫が開始されています。現時点で、活発な取引には至っていませんが、高成分需要がある米国内酪農家や中東向けに買付が進んでいます。灌漑局の発表によると、3月15日時点でのアルファルファの作付面積は146,520エーカーとなっており、前年同期の145,569エーカーから増加しています。  ◀ 25年産アルファルファ1番刈圃場の様子（3月下旬撮影）
チモシー	【米国産】 24年産は収穫時の天候に恵まれたことで、低級品の発生が限定的となりなした。多くの顧客は安価な低級品を求めたことで、24年開始時に低級品が先に売れ、その後、中級品、上級品と需要が推移しました。産地では馬糧および酪農向け需要が堅調なことから、多くの産地在庫はすでに売却済みとなっており、繰り越し在庫が無い状態で25年産を迎える見通しです。作付面積は10～15%増加すると予想されています。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区および南部レスブリッジ地区では、最低気温が氷点下を下回る日も続きましたが、4月に入り最高気温が15℃以上になる日も出てきています。日本向け需要に大きな変化はなく、出荷は順調に進んでいます。出荷量に大きな影響はありませんが、米国の関税の影響や、天候による物流面の課題には引き続き注意が必要です。
スーダングラス	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、最高気温が27℃～32℃まで上がった日が続き、播種に適した地温となったため、播種作業が開始されています。依然として相場低迷が続いており、生産農家の作付け意欲も高くありませんが、一部の輸出業者が保持していた2022年産や2023年産の旧穀在庫を解消しつつあるため、2025年産の作付面積は、2024年産に比べてほぼ同程度か、若干の増加が見込まれています。灌漑局の発表によると、2025年4月1日時点でのスーダングラスの作付面積は8,838エーカーとなっており、前年同期の4,366エーカーから増加しています。  インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移(単位: エーカー)
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 灌漑局の発表によると、2025年3月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,843エーカーとなっており、前年同期の21,438エーカーから増加しています。25年の生産については圃場で水入れが開始されており、1番刈の収穫は4月下旬から本格化する見込みです。昨年より実施されたDIP（休耕地政策）について、25年でも実施の見通しで、8月1日以降に45日／60日のプログラムに入ると予想されています。
バミューダ	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2025年産の生産に向けて圃場へ水入れを開始している生産者も見られます。本格的な1番刈の生産は4月中下旬ごろから開始される予定です。灌漑局の発表によると、2025年3月15日時点での作付面積は76,576エーカーとなっており、前年同期の65,715エーカーから増加しています。
ストロー類	主に、ストローの作付は種子生産が中心となるため、種苗会社からの需要に応じて調整されますが、主産地であるオレゴン州の2025年産のフェスキューの作付面積は10%減少し、ライグラスは例年並～微増と予想されています。
豪州産 オーツハイ・ ウィートストロー	豪州では2025年産の播種に向け、輸出業者と生産農家の契約協議が開始されています。2月に引き続き、3月に入っても全豪全体で乾燥した気候が続いており、土壌水分も低下しています。下図は、豪州の気象庁による4月の降水量予測ですが、西豪州や南豪州では10mm以下の少ない降水量になることが予測されています。播種時期に降雨が少ないとその後の生育に影響を与えることから今後の動向を注視する必要があります。  出典: The Australian Bureau of Meteorologyより 25年4月の 降水量予測



サマーリリーフ2025

牛の健康と酪農経営を支える暑熱対策

『暑熱対策で牛の健康と経営を守ること』を合言葉に暑熱期の牛の健康と生産性に徹底的に向き合い、今年の夏はうまく乗り切れた!と言っていただける生産者を1戸でも多く増やすことをゴールとする取り組みです。

プロジェクトが目指す姿

本会の事業方針

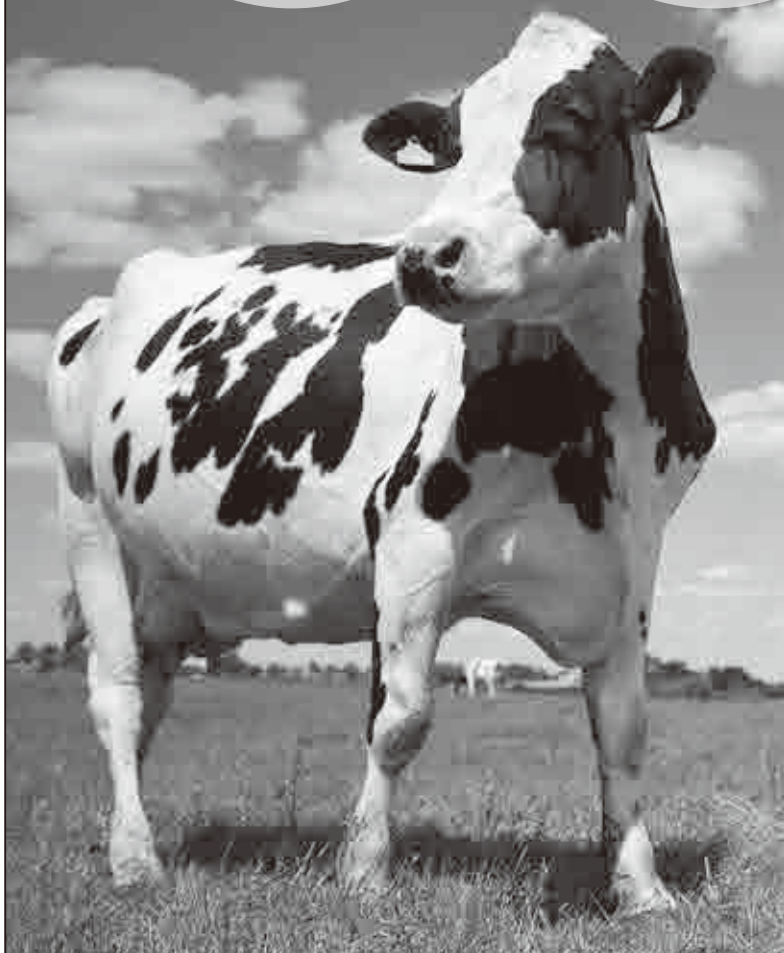
本会は生産性の持続的な向上に貢献する高品質な製品を供給すること、そして多様な生産現場に対応できる体制を構築することを目指しています

目 標

生産者と牛を守るための行動指標を最重要視し、1戸でも多くの生産者に「夏を乗り切れた」と言っていただけることを全ての行動の源泉とします

実施内容

生産者の皆様との対話や、関連研修会の開催を通して飼養管理面、施設環境面などからのご提案をさせていただきます



全酪連による暑熱対策製品群

重曹シリーズ



ゼンラク重曹
Mタイプ
重曹99%以上



重曹ペレット
Pタイプ
重曹60%



デリーMGソーダ
Pタイプ
重曹60%+酸マグ13%

暑熱期におけるルーメン環境の維持だけでなく、飼料中の DCAD 調整による乳量・乳質の維持も重曹の重要な役割です。

寒暖差が大きい春先から給与をはじめて暑熱シーズンの良いスタートを切りましょう

お問い合わせは

最寄りの全酪連支所まで

作品募集のお知らせ

第51回 らくのう
こどもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさ、技法は自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。**また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和7年5月30日(金) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒 賞

- ・特 選 1点
- ・入 選 4点
- ・秀 作 若干
- ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなろ賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第50回 特選
「元気な牛」
菊地遥空さん

第15回 酪農いきいき
フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
- (2)「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。**
- (4)応募点数：お1人様1作品のみ

③ 応募資格

酪農家

④ 締切日

令和7年6月30日(月) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。または、全国酪農青年女性会議公式LINEでも応募可能予定です。

詳細は決まり次第、全国酪農青年女性会議公式LINEで告知します。

酪農青年女性会議
公式LINE

@642bpcwk



第14回 特選「おうちへ 帰ろう」
茂木幹司氏 撮影

⑥ 審査方法

応募作品を「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。

※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

⑦ 審査結果の発表

- (1)「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

⑧ 褒 賞

- ・特 選 1点
- ・入 選 若干

◎入賞者には賞品を贈呈いたします。

◎提出していただいた作品の返却はいたしません。

◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町
2丁目10番28号 カメイ仙台グリーンシティ8階
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111



第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会

令和7年
7/17(木)
18(金)

日程

7月17日(木)

13:00~13:50 開会式
13:55~16:15 酪農経営発表
16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
16:40~18:15 酪農意見・体験発表
19:30~21:30 懇親会

7月18日(金)

9:00~ 特別講演
10:20~11:40 審査講評・表彰式
11:40~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ) 1名 **15,000円** (大会・懇親会)
※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

● 会場

「ホテルグランヴィア岡山」
〒700-8515
岡山市北区駅元町1-5
Tel 086-234-7000

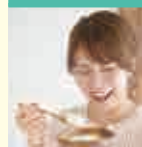


● アクセス

● 鉄道の場合
JR岡山駅2階からホテル直結。
中央改札口から徒歩1分。
● 車の場合
山陽自動車道 岡山ICから
約25分。
● 飛行機でお越しの場合
岡山桃太郎空港より車で
約30分。



特別講演



ヨーグルトマニア (一社) ヨグネット 代表理事 **向井 智香 氏**

講演内容 土着的な乳の保存手段として数千年の歴史を持つ発酵乳ですが、日本の食文化に本格的に取り入れられたのはここ数十年のこと。商品の付加価値として工業的に取り入れられた側面が強く、菌の働きによる健康面へのアプローチが市場を賑わせています。本講演ではヨーグルトが日本の食文化として成熟する上で重要な要素として取り扱われるべき「乳」と「クラフトマンシップ」に焦点を当て、消費者とともに日本の農の未来を作る食の在り方について考察します。

プロフィール SNSで3,100種類超のヨーグルトをレビューするヨーグルトマニア。全国の牧場・乳業メーカーを巡って独自に収集した情報をもとに、ヨーグルトにおける「乳」の魅力発信に力を注ぐ。
2022年「ヨーグルトの本」(エムディーエヌコーポレーション)著。
2023年 一般社団法人ヨグネット設立。

大会事務局

全国酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目 37 番 2 号 酪農会館
全酪連 総務部 組織対策課 内 / TEL. 03-5931-8003

乳牛産地情報

令和7年5月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~38	→	札幌管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で102.5%、苫小牧管内月計で99.1%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月下旬~8月中旬の分娩中心となります。夏分娩中心の取引となることから、価格は軟調に推移すると予想されます。腹別の資源状況については、雌雄選別・F1腹共に確保できる状況です。育成牛について、春分娩が期待できる個体は、自家保留する動きがあり相場は先月同様、横這いに推移するものと予想されます。当管内での庭先購買につきましましては、高能力牛が多い地域でもあることから、優良血統や高能力牛のご案内が可能です。
	初妊牛	56~66	⇐	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	根釧管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.5%、中標津管内月計で101.9%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月下旬~8月中旬の分娩中心となります。初妊牛に関しては、需要が落ち込む夏分娩への移行により、価格は軟調に推移するものと見込まれます。腹別の価格としましては、F1腹の引き合いが強いことから、F1腹はやや堅調、雌雄選別腹や和牛受精卵移植腹は軟調な動きで推移するものと思われます。一方道内においては、即戦力となる経産牛の需要が高く、先月に引き続き高値横這いで推移することが見込まれます。
	初妊牛	55~65	⇐	
	経産牛	38~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	32~42	→	帯広管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.9%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月下旬~8月中旬の分娩中心となります。需要が落ち込む夏分娩中心の資源が取引されることから、価格はやや軟調に推移すると見込まれます。腹別の資源状況については、雌雄選別・F1腹共に確保できる状況です。経産牛に関して、産歴の少ない中クラス以上は道内での引き合いが特に強く、夏分娩の時期に差し掛かるものの、相場は横這いで推移すると見込まれます。育成牛に関しましては、来春分娩となる生まれ月の育成牛は依然として人気があることに加え、資源の減少により、夏生まれの育成牛についても引き合いがあることから、相場は先月同様横這いに推移されると見込まれます。
	初妊牛	56~66	⇐	
	経産牛	45~55	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	道北管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.8%、北見管内月計で102.1%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月中旬~8月の分娩が中心となります。春分娩牛も上場が少なくなり夏分娩に切り替わっていきますが乳価の値上げもあることから、需要の増加は見込まれます。そのため全体的に相場は横這いに推移するものと考えられます。腹別の資源につきましては雌雄選別・F1腹共に十分に確保できる状態であり、育成牛は来春分娩が対象になる牛が多いことから、保留される牛も多く、相場は横這いで推移するものと見込まれます。経産牛については前回のホクレン乳価の発表後、需要は引き続き維持されると考えらえるため横這いで動くと思込まれます。
	初妊牛	55~65	→	
	経産牛	38~48	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	32~42	→	道内の4月中旬までの生乳生産量前年比は102.3%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、夏分娩に移行し需要が落ち込む時期となるため、価格は軟調に推移すると見込まれています。腹別の資源状況としましては、雌雄選別腹、F1腹共に確保ができる状況です。経産牛に関しましては、即戦力としての需要が高くなり横這いで推移すると思われます。夏からの乳価改定による導入意欲回復も見込まれるため、価格動向には注視しながら資源確保に向けて動いて参ります。このような状況下でありますので、資源確保のための導入計画がございましたら、お早めに弊社担当者までご注文を頂きますようお願いいたします。
	初妊牛	55~65	⇐	
	経産牛	40~50	→	

お詫びと訂正

本紙4月号(No.715)14ページに掲載しました名古屋支所発トピックス「『第52回中部酪農青年女性酪農発表大会』開催」のお写真のキャプションに誤りがありましたので、謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 村上悦史さん(意見体験の部)

→ <正> 村岡悦史さん(意見体験の部)

今月の表紙

今月の表紙は「第14回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「真剣な眼差し」(佐賀県 古川真弓氏 撮影)です。



編集後記

- 今年のゴールデンウィークは、いかがお過ごしでしたでしょうか？酪農家の皆様は牧草地や自給飼料畑での作業も本格化する季節ですね。今年も暑くなりそうです。熱中症対策、紫外線対策は忘れずにしてください。
- 5月病にはならないよう、リフレッシュして乗り切りましょう！
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和7年5月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 5月号 No.716

●編集・発行人 飯島洋一

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



かっこいい牛

認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 5歳（北海道） 高城葵

今月の入賞作品は…

認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 5歳（北海道）高城葵さんの作品です。

水彩で描かれた青空を背景に、クレヨンを使って強く黒く描かれた牛さんが堂々とした存在感でこちらを向いています。足元の干草や土の表現が色の層となって画面を彩っています。題名どおり、「かっこいい牛さん」に描けましたね。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第50回らくのうこどもギャラリー」で全国255点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議